114
A1769

秘密

貨幣制度調査員

得失ハ國家ノ經濟及財政上至大ニ關係アリ茲ニ以テ明治維新兵馬倥偬際舊政府制定ノ幣制改革ニ着手シ大坂ニ造幣局ヲ置カレ廣ク各國古今幣制ノ得失ニ鑑ミ明治四年新貨條例ヲ制定シ金ヲ以テ本位トシ開港場限リ通用ノ為メ貿易銀ヲ鑄造發行セラルルニ當時舊政府ノ後ヲ承ケ内外多事國用給セス不得止紙幣增發ノ事アリ之ニ加フルニ數百年來封建領國ノ弊習工業不起為メニ貿易ハ年々巨額ノ

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

不平均ヲ生ケ正貨ヲ海外ニ驅逐セルヲ
以テ金貨ハ殆ント市場ニ跡ヲ止メス開
港場ノ貿易ハ僅カニ外商ノ掠入セル弗
銀ヲ媒介トシテ取引ヲ為スノ景況ニ陥
リ不便言フヘカラサルヲ以テ明治十一年ニ
至リ新式貿易銀ノ通用區域ヲ一般内
地ニ及ホシ尋テ明治十二年ニ至リ貿易
銀ト弗銀ト並價通用ヲ公許シ以テ幣
制一時ノ急ヲ救フコトニ決セリ此時ニ當
リ明治十年西南戰爭ノ為メ政府紙幣
弐千七百万圓ノ巨額ニ達シ又明治九年國
立銀行條例ニ依リ後銀行紙幣ノ発
行参千弐百万圓ノ多キニ達シ

内地流通紙幣漸ク過多トナリ從テ其
價格正貨ニ比シ漸次ニ低落シ其結果
物價ハ非常ニ騰貴シ金利ハ昇リ公債
ハ下落シ輸出入ハ益々不平均ヲ告ケ正
貨ハ益々海外ニ流出シ人民ハ奢侈ニ奔
リ經濟并財政ノ狀況非常ノ危殆ニ陥
リ憂國ノ士ハ此ニ於テ廟議深ク憂
慮セラルヽアリ速カニ幣制ヲ整理シ
經濟并財政ヲ革新シ國家永遠ノ
基礎ヲ固フスルノ大方針ヲ定メラレ銳
意実行ヲ期セリ依テ明治十四年横濱
正金銀行ノ整理ニ着手シ以テ海外ニ對
スル金融機関ノ規模ヲ擴張シ明治

十五年日本銀行ヲ設立シ金融疏通ノ方法ヲ講シ尋テ兌換銀行券條例ヲ定メ明治十六年国立銀行條例ヲ改正シテ紙幣消却ノ方案ヲ立テ茲ニ紙幣ヲ畫一ノ基礎漸ク成ル而シテ政府發行ノ紙幣ハ先ツ豫備札ヲ引揚ケ或ハ金札引換公債証書ヲ發行シ或ハ歳入ヲ増シ歳出ヲ節シ差引歳入残餘ヲ以テ紙幣消却ノ元資ニ充テ或ハ準備金ヲ運用シテ正貨ヲ吸收シ以テ紙幣ノ兌換ニ充テ一方ニ於テハ紙幣ノ発行高ヲ減シ一方ニ於テハ正貨ヲ蓄積シ漸次紙幣ノ價格ヲ回復シ信ニ明治十九年一月一日ヲ以テ紙幣ノ兌換ヲ實施シ銀紙ノ價格同一トナリ茲ニ漸ク幣制整理ノ一段落ヲ見ルニ至レリ爾来本邦ノ経済ハ實ニ駸々トシテ進ミ商業ハ繁昌シ工業ハ起リ貿易ハ常ニ輸出超過トナリ正貨ハ年々流入シテ日本銀行ノ兌換準備ハ大ニ増加セリ而シテ財政亦共ニ好況ニシテ高利ノ公債ハ低利ニ整理シ歳計ハ年々数百万圓ノ剰餘ヲ生シ其頗積テ数千万圓トナルニ至レリ幣制ノ整理ハ明治十九年ヲ以テ一段落ヲ告ケタルモ是レ終カニ不換紙幣ヲ整理

シテ銀貨兌換トナシタルニ止リ未タ以テ金
本位ノ本体ニ復スルコト能ハス然ルニ世界銀
價ノ實況ヲ觀察スルニ鑛業及ニ製錬
術ノ進歩并銀床ノ發見ニ伴ヒ其産出
年々非常ニ增加シ價格從テ低廉ニ赴ク
ヲ以テ商工業ノ進歩シタル諸國ニ於テハ
物價ノ変動ト通用上ノ不便トヲ恐レ銀
貨ヲ鑄造スルコトヲ停止シ所謂排銀政
策ヲ實施セリ此ニ於テ銀ハ産出增加
スルニ拘ハラス貨幣トシテノ需用ハ反テ減ス
ルノ傾向トナリ價格益々下落ニ赴ケリ之ニ
反シ金ハ各國爭テ吸收ヲ力ムルヲ以テ其價
格騰貴スルニ拘ハラス其産額ハ濠洲及ヒ
カリホルニヤ金壙發見後ハ最近年ノ阿弗
利加金ノ發見マテ寧ロ減少ニ傾キ益々
價格ノ上騰ヲ来セリ形勢如斯ナルヲ以
テ列國ハ金貨國ト銀貨國トニ分レ相互
ノ間貿易上ノ不利從テ商工業ノ不便少
ナカラサリシヲ以テ各強大國一時銀價
維持策ヲ講究シ相協同シテ金銀兩
本位ヲ行ハンコトヲ發議シ會合數回一
モ協議ノ纒ルニ至ルモノアラサリキ各國中
北米合衆國ハ其領内ニ數多ノ銀山ア
リ銀價ノ高低ニ最モ利害ヲ感スルコト
強ク從テ國中ニ強大ナル可銀党ヲ生シ
政治上少ナカラサル勢力ヲ有スルヲ以テ最

モ熱心ニ両本位論ヲ主張シ前後二回単
獨ニ國内限リ両本位制ノ実行ヲ試ミタ
ルモ其目的ヲ達セスシテ止メリ此ニ於テ別
國中形勢ヲ傍観セルモノ相尋テ断然金
本位ニ移リ若クハ銀貨鑄造ヲ停止シ若リ
ハ盛ニ金ヲ吸収シ銀ノ輸入ヲ防キ以テ金
本位實施ノ準備ヲ為サリ而シテ世界中
銀吸收ノ二大中心ノ一タル印度ハ明治二十六年
ニ於テ機勢ヲ察シ突然銀貨自由鑄造ヲ
廢シ金計算ヲ取ルノ方策ヲ實施セリ本
邦ニ於テハ久シク不換紙幣ノ整理中ニアリテ
銀價下落ノ問題ハ深ク痛痒ヲ感セスシ
テ経過セリ然ルニ明治十九年銀貨同一トナリシ

後ハ此ノ問題ハ一日モ看過スヘカラサルモノト
ナリ熱心ニ注意ヲ怠ラス而シテ世界ノ大勢
ハ到底動スヘカラス即決心スルニ至リタ
ルヲ以テ時機モハヤ一日モ猶豫スヘカラス此ニ
於テ明治二十六年ノ秋廟議貨幣制度調査
會ヲ置キ幣制得失ノ調査ヲ命セラル
同會ハ熱心周密ニ調査ニ従事シ年ヲ
閲スル一年余経ヘテ明治二十八年七月ヲ
以テ調査ノ結果ヲ復命セリ其復命ニ依
ルニ我邦ノ幣制ハ改良ノ必要アリト為シ
其新ニ採用スヘキ本位ハ金タルヘキコトヲ
断言セリ而シテ金本位実施前ニ先ツ
金ノ蓄積ヲ必要トスル旨ヲ附言セリ其詳

細ハ載セテ同會ノ報告ニアリ
世界ノ大勢ハ彼カ如ク金本位実施ノ必要ノ報告モ亦斯ノ如シ依テ爾来専ラ金吸
モハヤ疑ヲ容レス
收ノ方策ヲ求メタリ恰モ好シ下ノ関係約
ニ依リ清國ハ償金貳億両ヲ支拂フコ
トヲ約セリ然ルニ清國ハ償金支拂ノ為ノ
公債ヲ欧洲ニ於テ募集スルノ必要アルヲ
以テ彼我ノ便益ヲ計リ償金ハ英京ニ於
テ金貨ヲ以テ受取ルコトニ約セリ茲ニ於
テ金ノ收支ハ非常ノ便益ヲ得タリ
今ヤ従来日本銀行ノ兌換準備中ノ金
貨叁千叁百餘万圓及償金ヲ以テ寄ニ

△之ヲ新金貨ニ換算スレハ一億九百四十餘万円△
傳ヘ金貨六千五百餘万圓合計九千八百餘
萬圓ノ多キニ上リ金貨本位ヲ実施ス
ルノ機實ニ熟セリト云フヘシ此機ハ実
ニ千載一遇ノ好機ニシテ再ヒ得ヘカラス
廟議ノ断然速カニ決スヘキアランコト
熟望ニ堪ヘサルナリ
今法案ニ具スル所ノ金本位実施方法ノ
大要ヲ述ヘンニ現今通用ノ壹圓銀貨
ト畧ホ同價格ノ金貨ヲ造ラントス
此ノ如クナルトキハ現在ノ貨幣并租税ノ
負擔其他現存ノ関係ニ変動ヲ與フルノ
憂ヲ避ケ得ヘキナリ而シテ壹圓銀貨ノ
製造ヲ廃止スルト同時ニ兌換銀行

券及ヒ政府發行ノ紙幣ハ金貨交換
ノ制ト為シ從來共發行ノ壹圓銀貨幣
ハ別ニ特別ノ資金ヲ設ケテ漸次其整
理ヲ完了シ之カ回收ニ從テ補助銀貨
幣ヲ發行シ以テ茲ニ金本位ヲ樹立
セントス
輓近本邦ノ貿易ハ長足ノ進歩ヲ為シ
タリ之ニ依テ將來ヲ推ストキハ一層ノ
發達ヲ考スヘキ望アリ加フルニ本邦ノ
地形タルヤカリホルニヤ及ヒ濠洲ノ如キ金産
出國ト連ナルヲ以テ金ノ吸收ニハ頗ル便ナル
モノアリ又支那朝鮮ヨリ輸出スル所ノ
金モサヤウサルヲ以テ貿易上ノ手段ニ
ヨリ其産金ヲ吸收シ得ルノ途ナキニアラス果シテ
然ラハ金準備ノ維持ハ敢テ難キニアラサルヘシ
又金本位ノ實施ハ政來諸國貨幣市場ノ中心ト
我國市場トヲ聯絡セシメ相互ノ間氣脈ヲ通ス
ルノ便ヲ開キ貿易ノ發達期シテ俟ツヘキナリ而シ
テ支那朝鮮等ノ銀國ニ對シ金貨國ト競爭ヲ
為スヘキ上ニ於テ我ハ地形ノ接近其他生産上ノ要
ナル事項ニ富ムヲ以テ深ク憂フルニ足ラサルヘシ
之ニ反シテ他日若シ銀價ノ下落一層甚シキニ至
ルトキハ支那朝鮮等ノ銀國ハ金貨國ニ對スル
輸出貿易上多少競爭ノ利ヲ占ムル所アルハ免
レサルヘキモ之レ亦一時ニ止リ幣制改革ニ依テ生
スル利益ト比較スルニ足ラサルナリ

之ヲ要スルニ貨幣ノ基礎今日ノ如ク動揺常ナクシテハ決シテ経済ノ確實ト貿易ノ發達トハ望ムヘキニアラス果シテ然ラハ償金ニ依テ回收シタル金ノ外出セサルノ今日若クハ臨時偶發ノ事変ノ為メニ意外ノ妨害ヲ蒙ラサルノ前茲ニ完全ナル金本位制ヲ採用スルノ基ヲ開キ現存ノ関係ニ動揺ヲ與ヘスシテ能ク確實鞏固ナル基礎ノ上ニ貨幣ノ制度ヲ置キ本邦ノ経済ヲ發達セシメ国家ノ地位ヲシテ一層高カラシメントス今日ハ當ニ其時機ナリ一度此期ヲ失セハ目的ヲ達センコト容易ニ望ムヘカラス故ニ希クハ断行ノ一日モ速ナランコトヲ別紙貨幣法案及特別會計法案其他新ニ製造ス

ノ附属法律案

貨幣ノ形式并ニ参考表ヲ添付シ茲ニ

閣議ニ提出ス

明治三十年二月

大蔵大臣伯爵松方正義

内閣總理大臣伯爵松方正義殿

貨幣法

第一條　貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬ス

第二條　純金ノ量目二分ヲ以テ價格ノ單位ト為シ之ヲ圓ト稱ス

第三條　貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

金貨幣

二十圓

十圓

五圓

銀貨幣

五十錢

二十錢

十錢
白銅貨幣
五錢
青銅貨幣
一錢
五重

第四條　貨幣ノ算則ハ總テ十進一位ノ法ヲ用ヰ一圓以下ハ一圓ノ百分ノ一ヲ錢ト稱シ錢ノ十分ノ一ヲ重ト稱ス

第五條　貨幣ノ品位ハ左ノ如シ

一　金貨幣純金九百分叅和銅一百分
二　銀貨幣純銀八百分叅和銅二百分
三　白銅貨幣「ニッケル」二百五十分叅和銅七百五十分
四　青銅貨幣銅九百五十分錫四十分亜鉛十分

第六條　貨幣ノ量目ハ左ノ如シ

一　二十圓金貨幣　四匁四分四重四毛四（十六匁六六六五）
二　十圓金貨幣　二匁二分二重二毛二（八匁三三三三）
三　五圓金貨幣　一匁一分一重一毛一（四匁一六六六）
四　五十錢銀貨幣　三匁五分九重四毛二（十三匁五四七八三）
五　二十錢銀貨幣　一匁四分三重七毛七（五匁

ラム三九一四）

六 十錢銀貨幣 七分一厘八毛八（二グラム六九五五）

七 白銅貨幣 一匁二分四厘四毛一（四グラム六六五四）

八 一錢青銅貨幣 一匁九分零厘零毛八（七グラム一二八〇）

九 五厘青銅貨幣 九分五厘零毛四（三グラム五六四〇）

第七條 金貨幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス銀貨幣ハ十圓マテ白銅貨幣及青銅貨幣ハ一圓マテヲ限リ法貨トシテ通用ス

第八條 貨幣ノ形式ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 金銀貨幣純分ノ公差ハ金貨幣ハ一千分ノ一銀貨幣ハ一千分ノ三トス

第十條 金銀貨幣量目ノ公差ハ左ノ如シ

一 金貨幣 二十圓ハ毎片八毛六四（〇グラム〇三二四〇）一千枚毎ニ八分三厘（三グラム一一二五〇）十圓ハ毎片六毛零五厘（二グラム〇二六九）一千枚毎ニ六分二毛三二（〇グラム一六二〇）一千枚毎ニ四分

一重（一グラム五三七五〇）トス

二　銀貨幣ハ各種共每片二重五毛九二（〇グラム〇九七二〇）五十錢銀貨幣ハ一千枚每ニ一匁二分四重（四グラム）六五〇〇〇）二十錢銀貨幣ハ一千枚每ニ八分三重（三グラム）一二五〇）十錢銀貨幣ハ一千枚每ニ四分一重（一グラム）五三七五〇）トス

第十一條　金貨幣ノ通用最輕量目ハ二十圓金貨幣四匁四分二重（十六グラム）五七五〇）十圓金貨幣二匁二分一重（八グラム）二八七五）五圓金貨幣一匁一分零重五毛（四グラム）一四三八）トス

第十二條　金貨幣ニシテ摩損ノ為ノ通用最輕量目ヲ下ルモノ及銀貨幣ノ銅貨幣又ハ青銅貨幣ニシテ著シク摩損シタルモノ其ノ他流通不便ノ貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手數料ニテ政府ニ於テ之ヲ引換フヘシ

第十三條　貨幣ニシテ模樣ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ為シ其ノ他故意ニ毀傷セリト認ムルモノハ貨幣タルノ効用ナキモノトス

第十四條　金地金ヲ輸納シ金貨幣ノ製造ヲ請フモノアルトキハ政府ハ其ノ請求ニ應スヘシ

附則

第十五條　從来發行ノ金貨幣ハ此ノ法律ニ依リ發行スル金貨幣ノ信位ヘ通用スヘシ

第十六條　從来發行ノ壹圓銀貨幣ハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ政府ノ命令ニヨリ漸次之ヲ引換フヘシ

第十七條　從来發行ノ五錢銀貨幣及銅貨幣ハ從前ノ通リ通用スヘシ

前項引換ノ結了マテハ金貨幣一圓ノ割合ヲ以テ無制限ニ法貨トシテ其通用ヲ許シ通用禁止ノ場合ニ於テハ六箇月以前ニ勅令ヲ以テ之ヲ公布スヘシ通用禁止ノ翌日ヨリ起算シ滿五箇年間ニ引換ヲ請求セサルトキハ爾後地金トシテ取扱フヘシ

第十七條　從来發行ノ五錢銀貨及銅貨幣ハ從前ノ通リ通用スヘシ

第十八條　此法律發布以後ハ一圓銀貨幣ノ製造ヲ廢ス但右期日以前ニ政府ニ輸納シタル銀地金ハ此ノ限ニアラス

第十九條　此ノ法律ニ抵觸スル從前ノ法令ハ從テ之ヲ廢止ス

第二十條　此ノ法律ハ第十八條ヲ除ク外明治三十年十月一日ヨリ施行ス

理由

本邦ハ往時金ノ産出多ク慶長以来多数ノ金貨ヲ鋳造セリト雖モ安政開港以後本邦金銀ノ比價其當ヲ失セシカ為メ金ノ流出甚シク殆ント其極ニ堪ヘス明治維新ノ始メ第一着手ニ幣制ノ改革ヲ規畫シ金貨本位ヲ採用セリ然ルニ当時紙幣ノ制宜シキヲ失シ正貨輸出ヲ促シ明治十一年ニ至リ一時止ムコトヲ得ス銀貨ノ一般通用ヲ仮許セリ茲ニ於テ貨幣条例上金貨ヲ以テ本位ト為スト雖モ実際銀ハ諸般計算ノ基礎トナリ銀円ハ唯一ノ本位タルノ地位ヲ占メ以テ今日ニ至レリ然ルニ今

ヤ金銀関係ハ大ニ其趣ヲ異ニシ又往日ノ比ニアラス
世界大勢ト我邦経済ノ進歩発達ハ銀貨本位ノ
不利ヲ感セシムルニ至リ加フルニ戰後大ニ本邦経済
財政ノ擴張ヲ要スルモノアリ金本位復舊ノ機今日
ニ逼リ而シテ日清事件ノ結果金ノ供給ヲ得ルハ頗
ル容易ニシテ此機ニ乘シ断然本位ヲ金ニ基ス將
来益〻我経済財政ノ発達ト聲国トヲ図ラントス
是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

貨幣整理資金特別會計法

第一條　壹圓銀貨、幣及流通不便ノ貨幣
引揚交換ノ為ノ貨幣整理資金ヲ置キ
其歳入歳出ハ一般會計ト區分シ特別ノ
會計ヲ設置ス

第二條　明治三十年度以後造幣局特別會計作業益
金ハ貨幣整理資金ニ充ツヘシ

第三條　交換ノ上引揚タル壹圓銀貨幣及
流通不便ノ貨幣ヲ地金トシテ賣却スル
トキハ随意契約ニ依ルコトヲ得

第四條　毎會計年度ニ於テ貨幣整理資金
特別會計ノ決算上該資金額ニ過剰ヲ

生スルトキハ其過剰金ヲ該資金ニ編入スヘシ

第五條　政府ハ毎年貨幣整理資金特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ帝國議會ニ提出スヘシ

第六條　貨幣整理資金ノ収入支出ニ関スル規定ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

理由

貨幣制度改革ニ就キ壱円銀貨幣交換其他貨幣整理ノ為ノ資金ヲ要シ其會計ハ一般會計法ニ依リ難キヲ以テ本法案ヲ提出ス

明治十七年第十八號布告兌換銀行券條例中左ノ通リ改正ス

第一條中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

第二條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ銀貨及銀地金ハ引換準備総額ノ四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

第七條中「金銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附則

此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

明治十七年第十八号布告兌換銀行券條例中改正法律案理由書

貨幣制度ノ改革ニ伴ヒ兌換銀行券引換ノ方法ト其準備トニ改正ヲ要スル事レ本案ヲ提出スル所以ナリ

参照

第一條　兌換銀行券條例　明治十七年十八号布告

據リ同銀行ニ於テ発行シ銀貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第二條　日本銀行ハ兌換銀行券発行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ

第三條　兌換銀行券ノ種類ハ壱円五円拾円弐拾円五拾円百円弐百円ノ七種トス但大蔵卿ハ各種ニ就テ其発行高ヲ定ムヘシ

第七條　金銀貨ヲ持参シテ兌換銀行券ニ引換レコトヲ請フモノアルトキハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スルモノトス

（以下畧）

明治十八年第十四号布告中「銀貨」トアルヲ「金貨」ト改ム

附則

此ノ法律ハ明治三十年十月一日ヨリ施行ス

明治十八年第十四号布告中改正法律案

理由書

貨幣制度ノ改革ニ由リ政府紙幣引換ノ方法ヲ改正スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

参照

紙幣漸次銀貨ニ交換　明治十八年布告第十五号

政府発行ノ紙幣ハ来明治十九年一月ヨリ漸次銀貨ニ交換シ其交換シタル紙幣ハ之ヲ消却スヘシ

但交換ノ手續ハ大蔵卿之ヲ定メ日本銀行ヲシテ其事務ヲ取扱ハシムヘシ

右奉勅旨布告仮事

明治十二年第三十五号布告ヲ廃止ス(12)

明治十二年第三十五号布告廃止法律案理由書

貨幣制度ノ改革ニ依リ洋銀該價通用ヲ禁止スルノ必要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ

参照

明治十三年九月第三十五号布告

一貿易表四銀(量目七匁一分七厘六毛性右

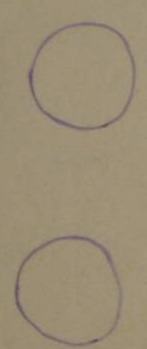
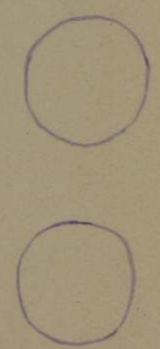
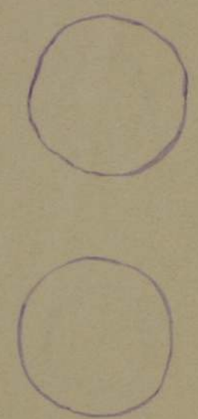
銀九銅一）ノ伐今般税関ノ諸税及其他凡
ソ洋銀ヲ以テ取引スヘキ諸勘定ノ払方ヲ
ナス為メ之ヲ差出ストキハ諸官廳ニ於
テハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ

一 来月十九日以後ハ人民ニ於テ凡ソ負債其
他ノ払方洋銀ヲ以テ履行スヘシト結約シタ
ル所ノ金高ヲ払フ為メ右壱四銀ヲ差出ス
トキハ之ヲ洋銀ト並價ニテ受領スヘシ

右布告候事

勅令第　号
法律第　号ニヨリ貨幣ノ形式左ノ通相定
ム

貨金位本

五圓	十圓	二十圓
		
徑曲尺	量目	性合
九分五厘	四匁四分四厘四毫四（十六匁六分六厘六毫六）	純金 九百分 參和銅 一百分
徑曲尺	量目	性合
七分	二匁二分二厘二毫二（八匁八分八厘八毫八）	純金 九百分 參和銅 一百分
徑曲尺	量目	性合
六分	一匁一分一厘一毫一（四匁四分四厘四毫四）	純金 九百分 參和銅 一百分

補助銀貨

十錢	二十錢	五十錢
○	○	○
○	○	○

	十錢	二十錢	五十錢
径尺曲	一寸〇二厘		
量目	三匁五分九厘四毛二（十三匁〇六分〇五厘四毛八三）		
性合	紙銀 八百分 参和銅 二百分		
径尺曲	七分四厘		
量目	一匁四分三厘七毛七（五匁〇六分〇五厘三九一四）		
性合	紙銀 八百分 参和銅 二百分		
径尺曲	五分八厘		
量目	七分一厘八毛八（二匁〇六分〇五厘六九五五）		
性合	紙銀 八百分 参和銅 二百分		

補助白銅貨

五錢	一錢	五厘
○	○	○
○	○	○

	五錢	一錢	五厘
径尺曲	六分八厘		
量目	一匁二分四厘四毛一（四匁〇六分〇五厘六六五四）		
性合	「ニッケル」 参和銅 二百五十分 七百五十分		
径尺曲	九分二厘		
量目	一匁九分〇厘〇毛八（七匁〇五分〇五厘一三八〇）		
性合	銅 九百五十分 錫 四十分 亜鉛 十分		
径尺曲	七分二厘		
量目	九分五厘〇毛四（三匁〇五分〇五厘五六四〇）		
性合	銅 九百五十分 錫 四十分 亜鉛 十分		

參考表

銀貨及銀塊五ヶ年間ニ交換概算

高調

一金七千九百三拾二万余円

内

金三千九百三十二万余円　内地流通壹円銀貨（但軍隊ノ携帯セシ一千万円ヲ除ク）

金三千万円　日本銀行在高銀塊

金壹千万円　外國ヨリ帰ル見込銀貨

計本文ノ如シ

一金三千七百五十万円　日本銀行ノ準備ニ充ル高

差引

金四千百八十二万円

但五ヶ年内ニ補助銀貨改鑄スヘキ高

右ノ経畫ニ依レハ一ヶ年ニ必要ナル基金ハ

金八百三十万円

尤モ一ヶ年ニ両度運轉スルモノトセハ必要ナル基金

ハ

金四百十五万円ト

壱円紙幣整理概算調

一金七千六百万円

内

一円兌換券　六千七百万円

一円政府紙幣銀行紙幣　九百万円

一金四千百五十万円　四ヶ年間ニ発行スヘキ補助銀貨

差引

金三千四百五十万円　一円兌換券流通高

右ハ市場ノ狀況ニヨリ五円兌換銀行券ト交換シ若

クハ補助貨ノ増発ト共ニ回収ヲ要スヘキモノトス

金貨鑄造見込

四、五、六、三ヶ月間　造幣局製造準備

七、八、九、三ヶ月間　鑄造

右三ヶ月間鑄造高

金貨四千八百万円

内

十円　金貨　千二百万円

二十円　金貨　三千六百万円

造幣局ヘ金地金輸入見込

金塊 二千万円　造幣局現在高

仝　千五百万円　三月中旬迄ニ造幣局着

仝　三千五百万円　日本銀行現在高

計七千万円

外ニ

三千万円　五月頃迄ニ取寄セノ見込

日本銀行準備金調

一金壱億九百四十万四百五十六円二十四錢六厘　金貨及金塊

内

金貨三千六百七十七万六千六百円

金塊七千二百六十二万三千八百五十六円二十四錢六厘

日本銀行在高

債金内ヲ以五月迄ニ兌換券ト交換スヘキ高

外

銀貨及銀塊　四千九百四万八百四十一円六十一錢六厘

合計壱億五千八百四十四万千二百九十七円八十六錢二厘

補助貨調

三十年一月末日

(ハ)

一補助銀貨二千三百六十五万二千九百二十七円五戔
新ニ増鑄見込高
四千百五十万円
小計六千五百十五万二千九百二十七円五戔

一白銅貨六百十七万九千三百十七円七十五戔
一新旧銅貨九百三十七万二千二百九十一円二十四戔五厘
小計壱千五百五十五万千六百八円九十九戔五厘

合計八千七十万四千五百三十六円四戔五厘

本邦通貨在高

三十年一月末日

一金貨壱千二百八拾七万二千百八十七円六拾錢
一銀貨七千三百三拾五万五千八百四拾四円九拾四錢壱厘
一銅貨壱千五百五拾五万千六百八円九拾九錢五厘
計壱億百七拾七万九千六百四拾壱円五拾三錢六厘
一政府紙幣九百二拾壱万七千百四拾七円七拾五錢
一銀行紙幣壱千六百四拾六万四千二百八十九円
一兌換銀券壱億九千五拾壱万九千四百四十六円
計二億千六百二十万八百八拾二円七拾五錢

合計三億千七百九拾八万五百二十四円二十八錢六厘